（別紙4-1）

NPO法人　福祉サービス評価機構Kネット

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0197400120		
法人名	医療法人アンリー・デュナン会		
事業所名	グループホーム　優和の郷・信（葵）		
所在地	深川市あけぼの町１番３５号		
自己評価作成日	平成30年10月4日	評価結果市町村受理日	平成30年11月14日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kihon=true&JigyosyoCd=0197400120-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

1.アットホームな雰囲気でゆったりした自由な生活の場を提供し、本人の望む暮らしが出来るよう寄り添い、本人本位のケアを行っている。2.家族や地域の方、関連事業所との連携を大切にし、利用者の生活をサポート出来る体制を常に意識した協力関係を築いている。3.季節に合わせたホールの飾り付けで季節感を感じて頂いたり、写真の掲示で家族や利用者同士が談話を楽しめる工夫をしている。4.本人の意思に基づいて家事仕事等をしてもらうことで、生活の中から意識することなくリハビリを取り入れることが出来、役割を持つことで日常生活の活性化にも繋げている。5.お風呂には天然温泉が引かれ、ゆったりのびのびと入浴を楽しんで頂いている。6.利用者と家族の要望に対応して飼い猫も受け入れており、今はセラピー猫として利用者の癒しに役立っている。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4　高砂サニーハイツ401
訪問調査日	平成30年10月23日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

「優和の郷・信」は深川市街から車で10分ほどの郊外に位置し、目標となる母体病院の敷地内に建つ平屋建て2ユニットのグループホームである。近隣には住宅街や大型スーパーがあり、バス停も近い。昨年開設された当事業所は、一般家庭のように上履きをはかない生活スタイルで、入居者は、理念にある、穏やかで、ゆったり、のびのび、笑顔のある暮らしを実践している。この暮らしを支えているのは、管理者をはじめとしてスタッフ全員の、入居者に対する理解と思いやり、そして笑顔の介護姿勢にある。施設内は清掃が行き届き、トイレ、洗面所、キッチンは臭いもなく、温湿度も快適に保たれている。また、家族とは、個別のお便りを発送し、入居者の近況を伝え、アンケートを実施するなど、意思疎通を図り、安心と信頼に繋げている。看護師である管理者と、気配り目配りのあるスタッフのチームワークの良さで「本人の望む暮らし」を支えている事業所である。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念・グループホームの介護理念を玄関に掲示している。ネームプレートの裏面に携帯し、常に職員一人ひとりが意識して業務に当たっている。	事業所の介護理念は、玄関に掲示するとともに、各職員のネームプレート裏面に印刷されており、職員は様々な介護場面で理念に基づいているか確認し、実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方に運営推進会議に参加して頂き、ホームの運営に対し理解をして頂いている。施設見学の受入れや町内会行事への参加を通して地域の方々との交流も深めている。	町内会に加入し、映画上映会や講演会等の地域行事に参加している。また、施設見学、ボランティアの受け入れなど、地域への働きかけを行っており、地域の方からは野菜などの差し入れもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学に対応し、認知症の方の生活状況や日々の役割を持った暮らし、活動状況を紹介している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設内のイベント行事やリハビリ等の活動状況を写真を使い報告している。研修の参加状況や事故・ヒヤリハットの報告も行い、施設への意見要望を聞かせて頂き、サービスの向上へ繋げている。	地域、家族、行政からの出席で隔月の定期開催を実施している。会議では入居者の様子や、行事報告にとどまらず、事故報告、その対策も公表、介護に対する真摯な態度がうかがわれ、家族や地域からの信頼につながっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月行われる市のケア会議に参加し、待機者数や空き状況等、積極的にサービスを提供できるよう様々な情報交換を行っている。日頃から連絡は密に取り合い、協力関係を築くよう取り組んでいる。	深川市が主催する介護保険関連事業者の集まりであるケア会議に毎月参加し、施設側の状況を報告するとともに、行政側からの情報を受けるなど、協力関係の構築に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会が中心となり、身体拘束虐待防止会議を開き、拘束へ繋がる対応等を学ぶ機会を作っている。センサーやナースコールの使用、ホール内に設置したミラー等で安全確保に取り組んでいる。玄関の施錠は行わず、自由に外出できる環境作りに努めている。	玄関の施錠は行っていない。センサーやナースコール、ミラーなどを使い見守る介護を行い、利用者の安全に配慮している。職員は身体拘束虐待防止会議の中で、何が拘束や虐待に繋がるのかを学び合い、ケアの向上に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	委員会が中心となり、身体拘束虐待防止会議を開き、虐待について学ぶ機会を作っている。虐待は徹底して防止し、皮下出血の痕も職員それぞれが意識してチェックを行っている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料を基に学習し、外部研修にも参加している。必要性がある場合は、相談受付や事業所との連携も行いながらケアに繋げていくよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学時から利用者や家族の困り事等に耳を傾け気軽に話してもらえる雰囲気作りを心掛けている。納得が出来るまで説明を行い、不安なく入所して頂けるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月グループホームだよりに日々の生活状況等を書いて家族に報告し、面会時や電話で直接家族の意見要望を聞き入れている。 玄関に設置しているアンケートや家族アンケートで記入してしてもらった意見や要望を基にケアの向上を図っている。	毎月のグループホーム便りは担当職員から家族へ入居者の様子が愛情あふれる文章で綴られ、家族の安心に繋がっている。また、玄関に設置しているアンケートのほかに、前回の調査で指摘のあった家族からのアンケートを実施し、新しい発見を得るなど、家族の意見や思いをケアに反映し運営の向上に役立てている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会議で職員との意見交換を行う機会を設けている。常に相談出来るような環境作りを心掛けている。	月に一度、スタッフ会議を開き、職員同士の意見交換の場としている。開催時間は、一人でも多くの職員が参加出来るよう午後の時間を設定している。この他にも、日常的に自由な意見交換が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	体調への気遣いや個々の事情に合わせて勤務対応をしている。勤務状況を把握し、人員確保へ法人間での協力も行っている。就業規則に基づき、働きやすい職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム協会へ加入し、研修を受ける機会を多く確保している。 外部研修で学んだことを職員に報告し、内部研修として職員のスキルアップへ繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	渉外チーム会議やケア会議を通じて、同業者とのネットワーク作りや情報交換を行い、サービスの向上に活かしている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と面談できる状況であれば、面談や見学に来てもらい一緒に過ごしてホームの生活や様子、雰囲気を感じて理解して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談の際の聞き取りで家族の困っている事や要望を傾聴し、信頼関係を築けるよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談の際、本人の身体的・精神的状況の把握と望みを聞き取り判断し、他事業所が望ましい場合には施設紹介を行う等対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の能力に合った出来る事を役割として提案し、本人の意思に基づいて強要することなく行ってもらっている。達成感や満足感、感謝の言葉を伝え喜びを感じてもらっている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診付き添いや買い物等、家族で対応が出来る部分については協力して頂いている。本人の認知症の進行に伴い、家族の不安が増えないよう本人の出来る能力、残された能力をアピールし、心の支えとなれるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望に添えるよう面会や外出・外泊の制限はなく自由にして頂いている。送迎者を明確にし、情報交換を行う事でトラブルに合わないよう努めている。	外出や外泊は、送迎者を確認し自由に行なわれている。また、友人、家族の来訪も歓迎し、居室だけではなく、共有の居間で、ほかの入居者とも団らんしている様子が見られる。日常的な買物などは職員も協力している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	トラブルにならないよう席の配置を考えたり、トラブルに発展しそうな場合は職員が間に入る等一人ひとりが良い関係を保って交流出来るよう努めている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も相談に応じて転居先の関係者に安心してこれまでの生活が送れるよう連携を取っている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの情報、普段の生活の様子、会話等から本人の思いを汲み取り支援が出来るよう努めている。	入居時に本人、家族からこれまでの生活歴を確認し、職員全体で共有している。また、入居してからは本人の何気ない会話や行動からも意向や思いを把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	馴染み深い暮らしに近付けるよう、本人・家族・ケアマネージャーから生活歴を聞き取り、本人の生活状況を観察把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方や生活リズムを記録に残して職員間で共有し、個々に合ったケアを把握出来るよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリング・プランの見直しを行っている。ニーズに添ったケアプランの立案が出来るよう意見の反映に努めている。	介護計画は、現場職員の意見、家族の要望など総合的に勘案して、計画作成担当者が作成している。状態の変化がある時は、定期更新を待たずに見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気付いた点等記録に残すと共に朝夕の引継ぎ報告で情報交換を行っている。ケアプランを常に意識出来るよう記録用紙と隣り合わせにケアプランを綴じ、ケアの実践結果等も評価し記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	飼い猫の受入れをしたり、いつでも気軽に家族が宿泊して頂ける等、本人や家族の状況・ニーズに柔軟な対応が出来るよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方の協力を得て、避難訓練を実施したり、イベント時に近隣の施設で外食をする楽しい時間を過ごして頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に協力医療機関の説明を行うと共に、本人・家族の希望を優先し、要望があれば受診の支援を行っている。	本人、家族の意向を大切にし、かかりつけ医の継続に協力している。また、母体法人である協力医療機関が隣接しており、常駐している看護師のもと、適切な医療が受けられるよう連携が図られている。	

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の体調の変化や日常の中で捉えた気付き等、細かい変化を見逃さず看護職員に報告・相談するよう努めている。 看護職員の指示の下、協力医療機関との連携を図り、適切な受診や看護が受けられよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院治療に必要な情報を医療機関に提供し、回復状況や退院等の情報を得て、連携しながら速やかな退院に繋げている。長期の入院が見込まれる場合も家族と相談し、継続して入居が出来るよう居室の確保等受入れ準備を整えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでい	健康状態を把握し、医師・家族の意向を踏まえ、事業所で出来る最善の支援に取り組んでいる。本人や家族の思いに寄り添った介護を目指し、カンファレンス等で介護方針の統一も心掛けている。	看取りは行っていないが、重度化した場合は、看護師である管理者が中心となり、病院、家族との調整を図り、事業所としてできる最善を尽くしている。日頃から、本人、家族の意向を聞き取り、重度化した場合の対応に備えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会や救命講習に参加し、実践力を身に付けている。緊急連絡網や看護師不在時でも速やかに連絡を取り合えるようオンコール体制を整えて協力関係を築いている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡網を整備し、消防署員立会いの下、家族や地域の方にも参加して頂き、防災訓練を行っている。避難方法について改めて職員に周知し、非常食や防災グッズの整備に努めている。	年2回の避難訓練は、運営推進会議を通じ、地域の協力を得て、消防署の指導のもと実施している。水や食料などの備蓄や災害グッズも用意されている。重要書類の持ち出しについては職員に周知されている。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	食事や入浴・排泄などの日常のケアにおいて、プライバシーを配慮した声掛けを心掛けている。	入居者の尊厳を考え、呼び方は苗字にさん付けを基本としている。排泄、入浴の声掛けもプライバシーに配慮し、大きな声は出さないなど職員間でも注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が選択できるよう声掛けし、日々の生活・会話の中から本人の好み等を知るよう努めている。言葉や希望を表すことが難しくなってきている人は表現が出来るまで待ち、その人らしさや本人本意の思いに寄り添った支援を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のしたい暮らしが出来るよう食事や入浴、就寝時間は希望に添って強制することなく本人のペースに合わせて対応し、負担にならないよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人に好みの衣類を選んで身に着けてもらっている。選ぶことが難しい人は職員が支援している。定期的に理美容師が散髪に来てくれている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に食事の盛り付けや配膳をして、食事中は音楽をかけたり談話したり楽しい時間を過ごしている。片付けも身体を気遣いつつ出来る人には手伝ってもらっている。 「○○を作りたい」という利用者の要望へは材料を用意し、一緒に調理している。 きざみやおかゆ等の食事形態も利用者に合わせて対応している。	職員と入居者が同席同食で、和気あいあいとした雰囲気の中、献立や味付け、家族や地域の方にいただいた食材の調理方法などを話題にして、食事が楽しい時間となっている。できる人には順番に準備、片付けの手伝いをしてもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事と水分摂取量は記録し、塩分制限や水分制限がある方は職員全体で把握し、個別に対応している。 摂取が難しければ、好みの物を家族に持参してもらったり、補食で対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きや義歯洗浄の声掛け介助やポリデントによる義歯洗浄、週一回の義歯ケースとコップの洗浄等を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、自立の人は見守りし、介助が必要な人は訴え時又は定期的にトイレ誘導を行っている。	昼間はリハパン、パットで過ごしている。トイレ誘導は、本人の様子で判断するが、訴えのない時は、時間、タイミングを見て行っている。トイレは清掃が行き届き、清潔で臭いもなく、快適な排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	センナ茶や病院からの処方薬を提供したり、運動や体操を行って自然な排便に繋がるよう支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	最低週二回の入浴日を設けており、希望に合わせて回数を増やす対応もしている。時間や曜日は決めず、本人の満足する入浴が出来るよう体調や気分に合わせて入浴スタイルを変えて支援を行っている。	週2回が基本だが、本人の希望により臨機応変に対応している。お湯は温泉水を使用し、一人ひとりお湯を変え入浴を楽しんでいる。一人での入浴を希望する人には、扉の外から見守りをしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活パターンや夜間状況で睡眠状態を把握している。飲み物を提供したり、話を聞く等安心して睡眠が取れるよう努めている。 消灯時間と休息場所の設定はなく、いつどこで休んでも良い環境を作っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬状況をファイルにし、目的や副作用への理解、転倒への留意に努めている。 薬は服薬ケースを活用し、一日分個人ごとにまとめてファイルしており、見やすく分かりやすい管理で誤薬防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の希望に合わせ、食器拭きや洗濯物畳み等の役割を持って生活して頂き、日常生活の活性化に努めている。 イベントやレクリェーション等を行い、日々の生活に楽しみを増やし、気分転換出来るよう努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支	一人ひとりの希望に合わせ、散歩や買い物の同行、町内会行事への参加、家族と一緒に外出する等、家族や地域の方の協力を得て、外に出る機会を持つよう支援している。	施設全体での外出行事はもちろんのこと、日常的には、散歩、買物、畑仕事など外に出る機会を多く作っている。外出時の笑顔の写真に、職員は戸外に出掛ける効果を実感しており、外出の機会を増やす努力をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持することで安心に繋がる人は、家族と連絡を取りながら把握した上で所持して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも事務所から電話を掛けたり、取り次ぐよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広々としたリビングには、季節に合わせた展示物やイベント時の写真等を飾り、季節感や会話を楽しめるようにしている。換気や温度・湿度管理への気配り、共用スペースの整理整頓を心掛け、利用者が思い思いに過ごせる空間作りに努めている。	共用の空間はリビング、食堂、畳スペースとつながり、窓も大きく広々とした解放的な空間を作り出している。室内の飾りつけは季節に合わせた共同作業の壁飾り、外出時の写真、また職員の手作りの作品など、入居者同士の共通の話題つくりに役立っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのソファーや畳の和空間、窓際の一人掛けソファー等、思い思いに過ごせる居場所の工夫を行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に、机やベッドの位置を好みに合わせて移動したり、使い慣れた物や家族の写真等を飾ってもらい居心地良く過ごしてもらえるようにしている。	各居室には電動ベッド、チェスト、椅子、防災カーテンが備品として備えてあり、また、クローゼットもあり、居室内はすっきりと片付いている。家族の配慮や本人の好みに合わせ、写真、仏壇、小物類が配置され、猫を飼っている入居者もいる。それぞれ自分の居場所として居心地よく過ごせるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーで廊下やトイレには手すりがあり、床はクッションフロアになっている。電気の自動点灯や死角になる部分への鏡の設置等で安全な見守りを確保している。トイレや居室の場所、ドアの開け方が分かるよう表示を付ける工夫も行っている。		